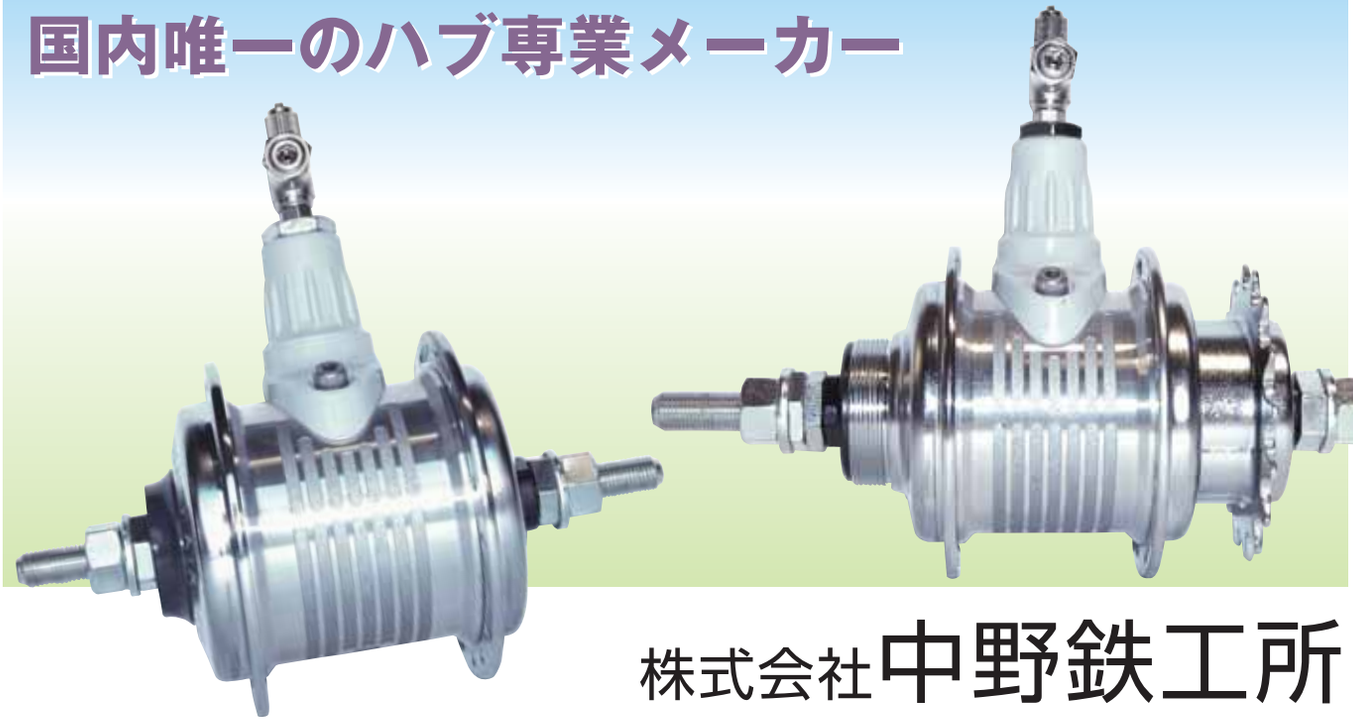
世界初「空気入れ不要の自転車」を生んだ国内唯一のハブ専業メーカー



株式会社中野鉄工所

ノウハウ付きプラント販売で危機を脱出

中野鉄工所は、昭和23年の創業以来、自転車のハブ（車輪の中心軸）に特化して製造を続けてきた。昭和29年に一貫生産体制を確立すると、昭和50年には工場の移転に伴い、ハブ製造のＦＡ化を実現する等、常に業界内の注目を集めてきたメーカーである。

元々、大阪・堺の地場産業として古くから栄えてきた自転車産業。実際、ピーク時（平成2年頃）には国内年間生産台数が約８００万台にも上ったが、近年では安価な中国製品に押され、約１００万台にまで減少。

さらには、完成車メーカーの倒産や工場の海外進出等により、国産自転車の製造を支えてきた部品メーカーが販路や生産の場を失い、次々と廃業。自転車ハブ専業のメーカーも国内で同社のみとなってしまった。最盛期には国内出荷台数が約４００万台、アメリカへは約２００万台と、計約６００万台もの出荷台数を誇った同社も危機に見舞われた。

そうした中、中国に新たな販路の可能性を見いだした中野隆次社長は、ハブ製造の無人化ラインを売ることにした。それも、技術者を派遣する「ノウハウ付きプラント販売」という形で提供し、でき上がった製品をナカノブランドとして逆輸入しようと考えたのだ。

「さらに前進するため、新商品を開発したいと必死でした。しかし当社はハブ作りの設備に特化しており、ほかのことはできませんでした」。多方面に手を伸ばすのではなく、一つの道を追求することで得ることができた新たな展開だった。

こぐだけでタイヤに空気を注入する奇跡のエアハブ

「自転車にはさびる・盗まれる・パンクするという3つの大きなリスクがある」という。さらなるアイデアを模索する中野社長は、このうちの「パンク」に着目。パンクに関しては有効な手だてが開発されていないと感じ、原因を探った。結果、パンクの原因の80％以上がタイヤ内の空気圧不足によるという、空気式タイヤチューブが持つ宿命的弱点に行き着いた。

その後、試行錯誤を重ね、タイヤの回転運動をピストンの上下運動に変換することで、ハブ内のポンプからタイヤへ必要な分だけ空気を送り込み、常に最適な空気圧を保つシステムを開発。豪雨等、過酷な条件下でのテストを繰り返した結果、構想から2年の歳月を経て、約5万km以上の耐久性を持つ「自転車用タイヤ自動空気補充装置（エアハブ）」の量産化にこぎつけた。

「こぐだけで空気が入り、パンクしにくく、快適に走ることができ、しかもメンテナンスが不要。これなら長く大切に乗ってもらえるでしょう。使い捨てにされる自転車を見るのは辛いものです」と中野社長。

最近では、パンクが少なく安全で軽いという利点から、車椅子にも使われ始めたエアハブ。さらには、変速機を内蔵した内装三段ハブの開発により、あらゆる車種への装着を可能にした。エアハブの活躍の場は、今後さらに拡大し続けることだろう。

主な事業内容

自転車部品（ハブ）の製造・販売、工作機械、内燃機関・同部品の製造・販売等

株式会社中野鉄工所
Company Profile

住　所／〒587-0042
大阪府堺市美原区木材通2-1-9
創　業／昭和23年7月
設　立／昭和29年5月
資本金／6,000万円
従業員／8名（平成21年1月現在）
ＴＥＬ／072-362-5550
ＦＡＸ／072-362-3629

日本17　全国18

http://www.nakano-iw.co.jp/

中野隆次さん
代表取締役社長

社長語録　エアハブをきっかけに長く同じ自転車に乗ってもらいたい。　中野隆次